

# 【16】

テーマ「本音が言える環境づくり」

タイトル「発見！みんなが持っているいじめストップ力」

## 【学習のポイント】

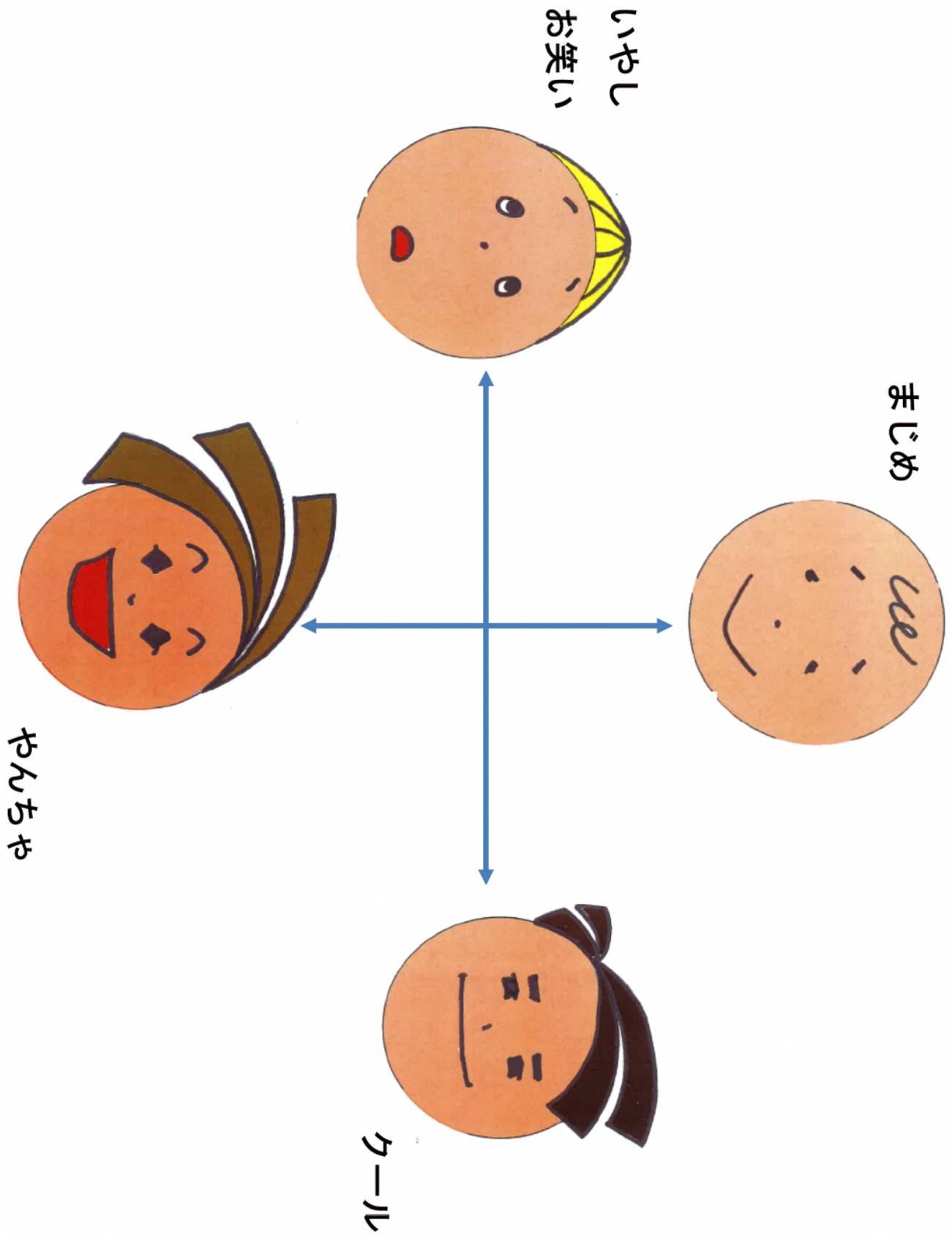
○日頃の生活や会話の中から、いじめの未然防止につながる力を持っていることに大人も子どもも気づき、行動につなげる。

## 【すすめ方（80分）】

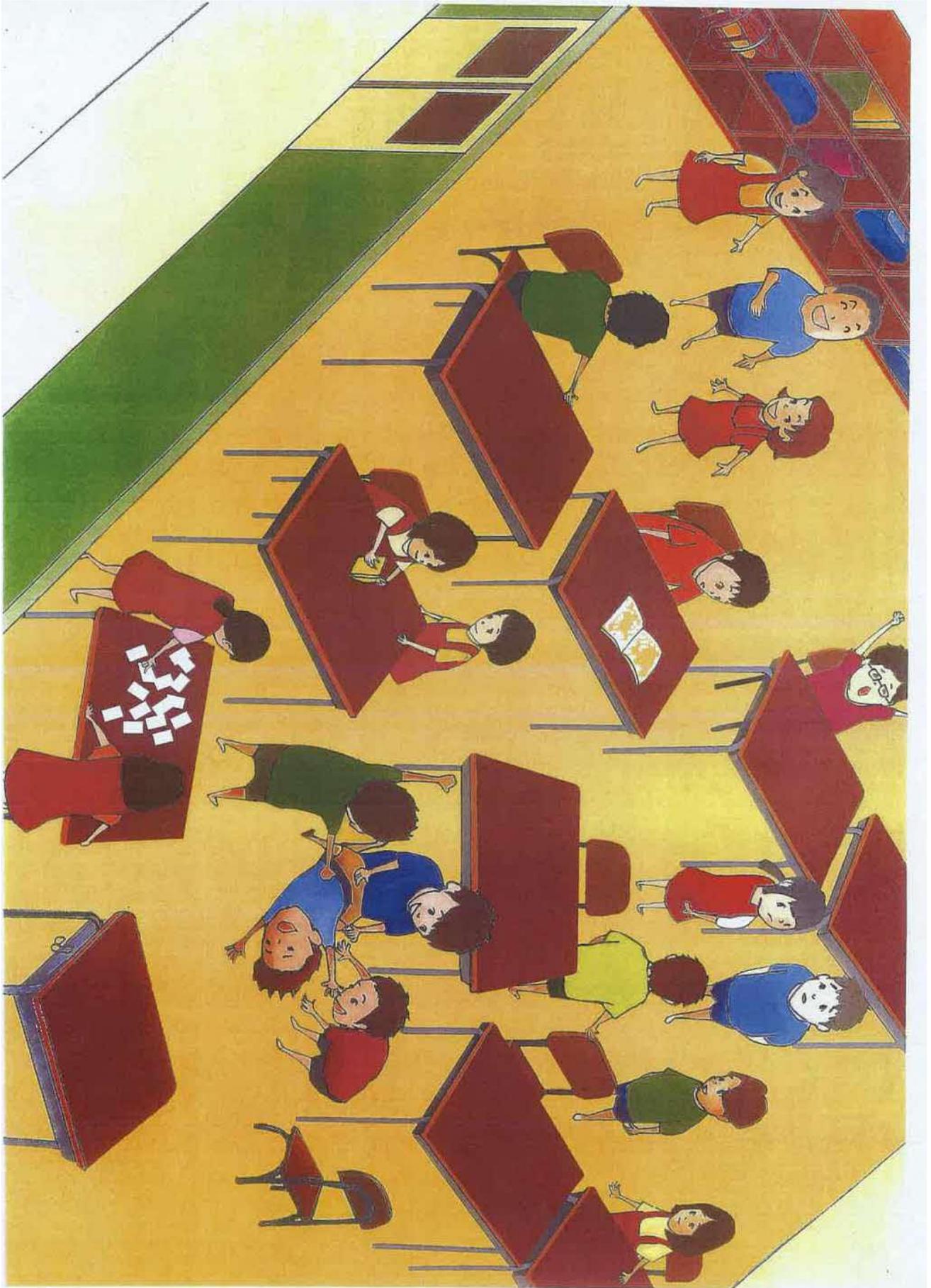
流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	4 6	1 活動のねらい、話し合いのルールを確認 ・ファシリテーターも自己紹介する。 2 アイスブレイク ○○キャラで自己紹介 (子どもの学年も交えて自己紹介しましょう。)	■「まじめなおしゃべり」 ■お互いの経験や体験を出し合い、会話で理解を深めていく活動です。 ■小学生の時、あなたは何キャラでしたか？付せんにニックネームを書いて図に貼りましょう。	◆「参加・尊重・守秘」を掲示しておく。 ◆席は4～5人グループ ◆自己紹介シート（A3）提示 ◆呼んでほしい名前を記入する付せんを配る。 ◆自己紹介シートに直接書き込んでよい。
展開1	3	3 イラストの場面について感想を出し合う。	■あるクラスの休けい時間の様子です。日頃どのような状況か想像してみましょう。	◆場面イラスト①（A3）を貼り、上辺を折った模造紙を配る。 ◆ファシリ用のイラスト（A2）を掲示しておく。 ◆黒ペン
展開2	7	4 グループの中で出たつぶやきを黒ペンで書き、吹きだして囲む。		例：次は算数か…
展開2	5	5 エスカレートしていく状況を説明する。	■実は、こんな状況です。グループで『プロレスごっこ』を読んで共有しましょう。	◆場面説明『プロレスごっこ』（A4）を配る。 ◆場面イラスト②（廊下に先生と児童の絵）を追加する。
		<b>エスカレートして状況が変わってきた時、それぞれの心の動きを書く</b>		
	15	6 状況を把握した後でどの子がどんな言葉や行動になるのか、それぞれの心の動きを想像する。	気持ちやセリフ（心の動き）を赤ペンで書いて、くも型の吹きだして囲みましょう。	◆赤ペン ◆ユウタ、タケシ、周りの子は何を感じ始めるのか。
	1	・経験をもとに、さまざまな「気持ち」を出し合ったことを確認する。	■自身の体験や子どもとの関わりがあるからこそ本音の気持ちが出ました	例：いつまで続くの？ ◆「○○キャラだから～」

			ね。	「本音は～」といった視点からも考えてみるように促す。
展開 3	10	7 日常生活を振り返り、具体的な声かけや行動を紹介し合う。  ・家庭で「やっていること」を青ペンで書いて、四角で囲む。 ・事例を紹介する。 例：手書きの「おかえり」貼り紙	<p>■子どもが安心して本音と言える環境のために、日頃家庭でやっている具体的なこと（声かけや行動）を、模造紙の空いたところに青ペンで書いて、四角で囲んでみましょう。</p> <p>■子どもがホッとする身近なエピソード紹介</p>	<p>◆展開 2 までの活動をまとめる。</p> <p>◆青ペン</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; color: blue;"> <p>例：クラスの友だちの名前を覚える！</p> </div> <p>◆おかえりチラシを掲示 「おかえりと 家に帰ると 書いてある チラシのうらでも うれしいよ」（小4男子 短歌）</p> <p>◆シールを配る。 （1人3枚）</p>
	10	8 ギャラリーウォーク	<p>■他のグループを見て、共感するものや参考にしたところ【青字】に共感シールを貼りましょう。</p>	
まとめ	12	9 子どもが安心して本音を語れるため明日から出来そうなことを考える	<p>■模造紙に貼られた共感シールや今日の活動を振り返ります。</p> <p>■子どもの本音に寄り添いたいという気持ちを込めた「明日から出来そうなこと」をグループで考えましょう。</p>	<p>◆折り返しておいた模造紙の上辺に青ペンで大きな字で書く。</p> <p>◆ギャラリーウォークで仕入れた意見も参考に促す。</p>
	5 2	10 ファシリテーターが各グループのまとめを紹介 11 まとめ ・活動で印象に残った意見などを紹介するのもよい。		◆資料「まとめ」を配る。
<p>これまでの活動を通して「明日から出来そうなこと」を考える。</p> <p>■いじめの未然防止を考えるプログラムでした。傍観者（周囲の人）の少しの気づきと行動が、いじめをさせない人間関係につながります。</p> <p>■どんな本音も受け止めたいと思う大人の気持ちを、言葉や行動で子どもに伝えていきたいと思えます。</p> <p>■いじめに気づく力も、差別をなくす力も私たち一人一人が持っています。</p>				

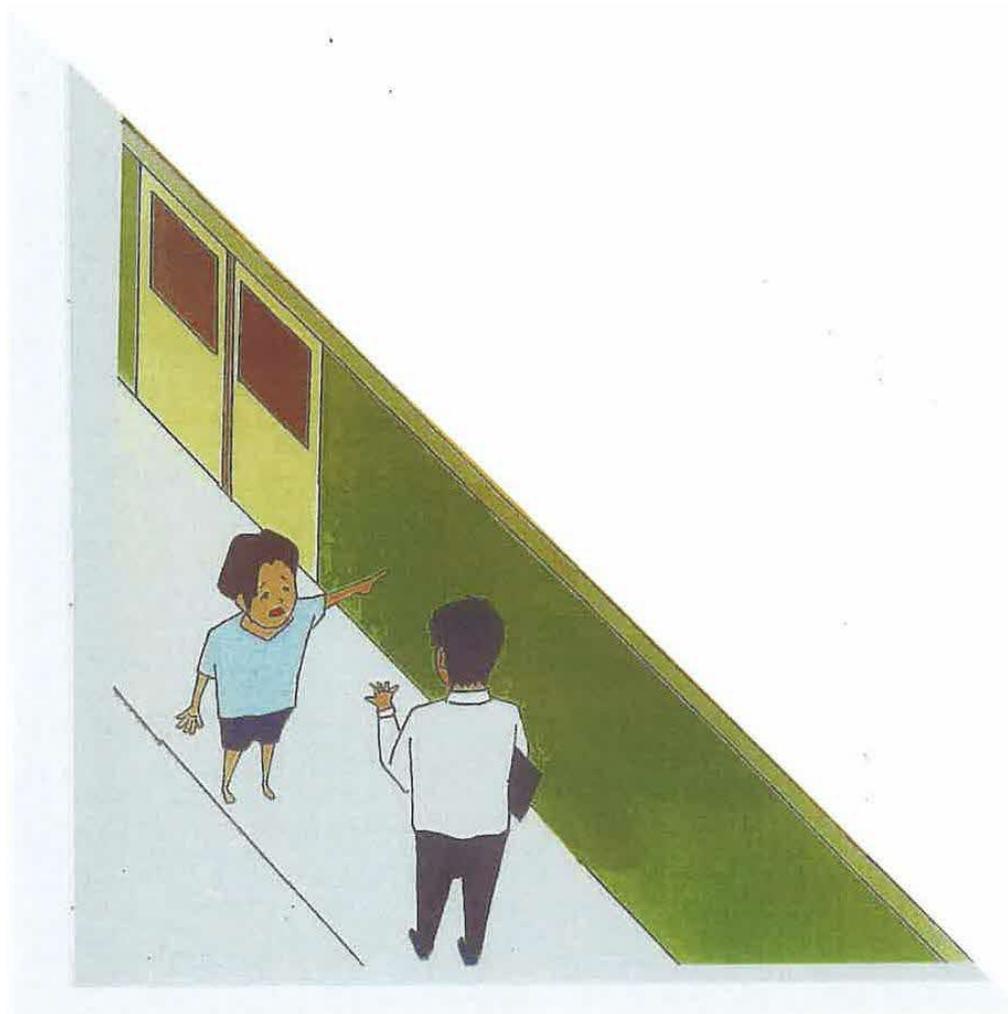
【自己紹介シート】(A3版に拡大)



【場面イラスト①】（A3版に拡大）



【場面イラスト②】（A3版に拡大）



【場面説明】「プロレスごっこ」（A4版で配布する）

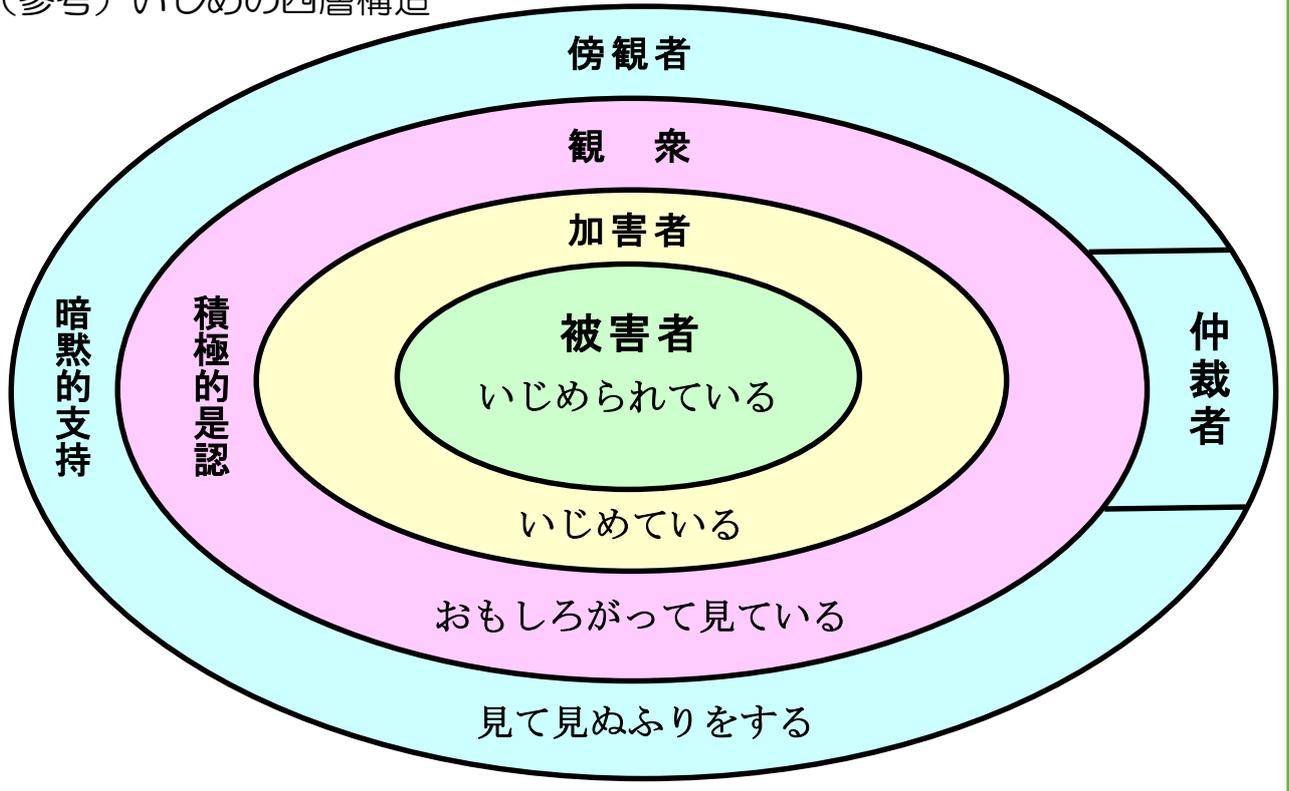
プロレス好きのタケシ君が、クラスのユウタ君を誘ってプロレスごっこをするようになりました。

遊んでいるうちにお互い熱くなって、むきになってしまいました。弱いと思っていたユウタ君が予想以上に強かったので、タケシ君は他の友達に命じて、2対1や3対1でユウタ君とプロレスごっこをするようになりました。ユウタ君が笑いながら「エヘヘ！参った。降参。」と言ってもやめてくれません。周りの級友も笑って見えています。

ある児童が担任に、いじめがあると伝えました。担任がタケシ君やユウタ君に確認すると、二人ともふざけていただけだと答えました。担任は特に指導することもなく、プロレスごっこは今日も続いています。

まとめ

(参考) いじめの四層構造



いじめ集団の四層構造モデル 森田洋司氏

- 日本の子ども（集団）は、傍観者から仲裁者となる力をつけていくことが課題としてあげられます。
- 「いじめ防止対策推進法」（平成25年9月施行）で、子ども、保護者に対してもいじめ問題への関わりが規定されました。いじめを子どもの責任だけの責任とすることなく、子どもがいじめに向かわないようにするために、常日頃から家庭でも「いじめは絶対にしてはならない」と指導することが求められます。

鳥取県教育委員会事務局ホームページより

○『子どもでもわかるように「いじめ防止対策推進法」を解説』から一部抜粋 碓井真史氏

第2条 いじめの定義

いじめとは、子ども（児童生徒）が、ある子どもを心理的、物理的に攻撃することで、いじめられている子の心や体が傷ついたり、被害を受けて苦しんだりすることです。インターネットいじめも、いじめです。（「普通の子なら、このていどやられても平気だよ」は、言い訳になりません。この子が傷つけば、いじめです。）

第9条 保護者の責任

お父さんやお母さん、子どもの保護者は、子どもを教育する責任があります。子どもがいじめをしない子に育つよう、努力します。自分の子どもがいじめられたときには、子どもを保護します。また、学校などが行ういじめ防止活動に協力するよう努力します。